



2023 明けましておめでとう  
いつせい地方選挙の年  
よろしくお祈いします。

# おとなに相談するにはハールドルがある

日隈市議は12月7日、「子どもは、おとなに相談するにはハールドルがある」と課題を指摘。中高生の心のよりどころになる施設を提案しました。

市は、今ある中央児童館の建物を増築し、総合的な子ども支援拠点にする計画をすすめています。この計画に30人の市民から意見や質問が届いています。

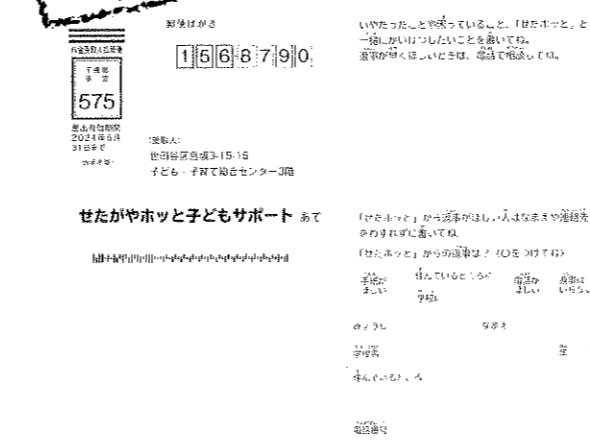
日隈市議は市民の意見を取りあげ「中高生の心のよりどころになる施設をめざし、どのように活用するのか」と質問。福祉保健部長は「中高生は、さまざまな悩みや不安を抱えている。一方で、相談相手がいない、誰に相談したらいいかわからない、相談しているところを学校や友だちには知られたくないなど、複雑な思いがある」「安心して相談できる環境を整え、居心地のよい雰囲気づくりに取り組む」と答えました。

超えています。「せたホッと」のハガキ相談は、小学生が保護者に知られず、自分のタイミングで相談できる方法になり、相談件数が増えています(上のハガキ)。相談ハガキは、各学校を通じて子どもたちに配っています。

日隈市議は「おとなに相談するハールドルを低くする環境を考えるべきではないか」と質問。福祉保健部長は「電話や手紙での悩み相談も考えている」と答えました。

日隈市議は「小さい子、大きい子、障がいのある子が楽しく遊べるために、プレイルームと多目的ホールの遊具整備をどのように考えているか」と質問。福祉保健部長は「プレイルームは就学前の幼児の遊び場として、子どもの発達段階に応じた遊具をおく。多目的ホールには固定遊具をおかず、広い空間とする」と答えました。

## 12月議会一般質問 子ども支援拠点の整備計画に提案



せたがやホッと子どもサポートの相談ハガキ ▲

## マイナポータル利用規約の同意に落とし穴

日隈市議は12月7日、「市はマイナンバーカード取得促進強化キャンペーンで、市民にどのような説明を行っているか」と質問。「利用規約で何を約束させられるのか、市民に前もって説明していない」と指摘しました。

上のグラフはマイナンバーカードの毎月の申込数をグラフにしています。申込みが増えた月は、カードをつくとポイントがもらえるキャンペーンが影響しています。

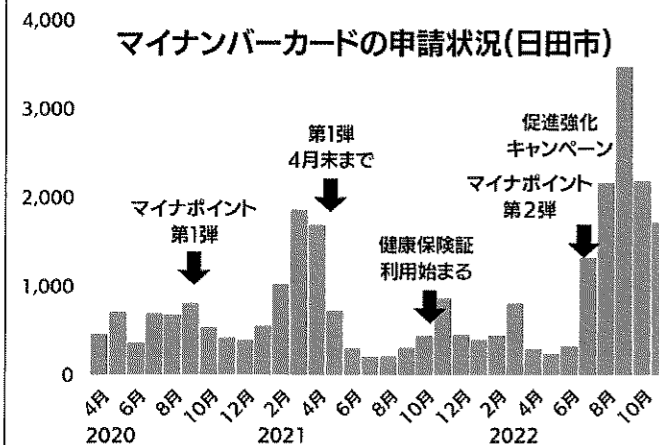
日隈市議は「マイナンバーカードを健康保険証として利用する方法をどのように説明しているか」と質問。市民環境部長は「パンフレットを使って説明している。健康保険証として利用するには、マイポータル利用規約の同意が必要となる。お客様の意向・意思を

確認しながら手続きをすすめている」と答えました。

利用規約23条には「情報漏えいやシステム障害があっても、デジタル庁は一切責任をとりません」「利用しているときコンピュータウイルスに感染して被害が出ても、デジタル庁は責任をとりません」とハッキリ書いています。日隈市議は「市民に前もって説明すべきではないか」と追及。市民環境部長は、マイナンバーカードのセキュリティ対策が十分とられていることを説明しました。

日隈市議は「デジタル大臣が国会でリスクを認める発言をしている」と指摘し、利用規約の内容を市民に知らせよう求めました。

## マイナカード取得促進 市は保険証として利用すすめる



「マイナポイント第1弾」は2020年4月、「マイナポイント第2弾」は2021年4月、「健康保険証利用始まる」は2021年10月、「促進強化キャンペーン」は2022年4月以降である。